

堀田賢逸



風



後援会報

発行所
堀田賢逸後援会平鹿町醍醐字醍醐98-2
TEL 0182-25-4011
e-mail: iohotta@rname.jp

平鹿町議会の自主解散に伴う出直し町議選は八月二十八日告示、九月一日投票が行われ、結果は前職九名、元職一名、新人十二名が当選した。平均年齢は五歳若返り五十六歳となつた。

町議会は先の町長選に絡む公職選舉法違反事件で町議十一名が逮捕される事態となり七月二十五日の定例本会議において出席議員十一名の全会一致で自主解散した。(町民に好評)

その出直し選挙には新人十五名が立候補し華々しい選挙戦となつた。

我が堀田陣営は総括責任者、伊藤武三氏、選対委員長伊藤富二郎氏、後援会長、藤原正氏の三本柱を軸に地元の爆發的な盛り上りは老若男女、家族ぐるみの支援による賀水の陣となつた。

実際の選挙戦では堀田候補夫人が選挙カーに同乗できなかつたこと、周囲を他の候補者に囲まれ地の利は極めてわるかつたこと、堀田氏の名前も頗もこれまで非売品であったこと、等マイナス面が目立つた。しかし、わが陣営の奮闘と広域の方々のご協力はその負を果して余るものがあつた。

N・H・Kテレビでは前職候補から真田氏、新人候補者から堀田氏を選び選挙戦に密着取材し「新生平鹿町」を目指す候補者の姿勢と町民の反応を放送した。

その他選挙戦にかかる難事、珍事は枚挙にいとまもないが庄巻は選挙戦の最後をかざった地元での行進だった、選対委員を先頭に堀田候補以下百数十人が続き「堀田・ほつた・賢逸・けんいつ」のコールは天を衝き三地区せましと響き渡つた。

この度の選挙は事件の後だけに、文字通りの公明選挙であった。今後も斯くありたいと願うものである。

堀田氏には五百四十票の重さを噛みしめ切志貫徹と地域住民の融和に力を注いでいただきたい。

(編集部)

平鹿町議選開票結果

		候補者数 26	
当	683 佐藤 誠洋	43 無新	新前
當	599 佐藤 徳雄	53 無新	新前
當	597 真田 倉平	68 無新	新前
當	585 遠藤 忠裕	52 無新	新前
當	540 堀田 賢逸	56 無新	新前
當	534 小林 昭一	54 共新	新前
當	516 飯野 由見雄	51 無新	新前
當	510 森田 貞一	58 無新	新前
當	506 松沢 武弘	52 無新	新前
當	489 松沢 清光	55 無新	新前
當	469 斎藤 純司	55 無新	新前
當	454 斎藤 喜代美	53 無新	新前
當	433 武内 竹藏	67 無新	新前
當	398 小松 茂	54 無新	新前
當	364 藤原 一照	54 無新	新前
當	358 菊地 謙造	60 無新	新前
當	356 深澤 重俊	53 無新	新前
當	349 公地 進	56 無新	新前
當	346 佐々木 一志	50 無新	新前
當	343 東海林 順一	49 無新	新前
當	328 栗田 信義	60 無新	新前
當	285 草薙 哲	46 無新	新前
次	281 長谷川順二郎	65 無新	新前
當	240 堀田 アイ子	75 無新	新前
當	89 杉山 豊	70 無新	新前
當	70 奥 三郎	65 無新	新前
有権者数 12,334		男 5,817	女 6,517



これから後の後援会活動

後援会会長 藤原 正

季節の移り変わりは早いもので皆様と共に選挙を戦つた時は暑い夏でした。忘れもしない七月八日集会の席で堀田さんから直接、町議選立候補決意をお聞きした時は皆驚きましたが開席の人達は「皆で押そう」と衆議一決七月十七日堀田さんの「推せん会」が開かれました。

勿論溝場一致で推せんとなり、堀田さんの退職を持つて七月二十六日後援会結成の運びとなり会費制でジュースの乾杯など隔世の感度ありました。

そして固らずも私が会長をお引受けすることになりました。「これは大変なことになった」が第一感でしたがその心配はすぐにすつと去了ました。集客の皆様の盛り上りは、一鼓動を通りこして集落共同体の感じになりました。

また広く町内の方々のご支持・応援も大きな励みとなりました。戦い終つて当選の祝勝会には多くの皆様がおいで下さいましたが会費など頂戴し恐縮いたしております。この時の喜びは何物にも変えがたく言葉では言い表せない快感がありました。しばらくは何も考えずばつとあります。田んぼの収穫は終りましたが、今後果樹・野菜の収穫が控えています、会員各位のご健勝を祈念申上げます。

今後は後援会活動を通じて地域の声を醸めて町政に反映させてより良い町作りを目指して行きたいと思っております。

私は平鹿町の町民意識を根本に

「市政の信頼回復」「地元の声を町政に」と選挙で訴えてきました。

そのためにはみなさんの声をよく聞きそして議会の情報を伝えること

だと思っています。

その方法の一つとして、後援会報

を出すこととしました。

後援会報をみんなの情報源、発信

源として育ててほしいと思っています。

勉強しなければならないことばかりですが皆様の負託に応えるべく全力で頑張ります。

その中から暮らしやすい住み良い地域を皆様と一緒に作ることが出来ればよいと考えております。

勉強しなければならないことばかりですが皆様の負託に応えるべく全力で頑張ります。

選挙でいただいたあの熱い

とばかりですが皆様の負託に応えるべく全力で頑張ります。

選挙でいただいたあの熱い

<p

選挙をふり返つて 伊藤武二二

選挙は終わった。

ともあれ新しい人や古い人も含めて二十二名の議員が揃ったのである。責任のある一人一人が、それぞれの考え方で人を選んだ結果がこうした議員を誕生させたのである。こうしてこれから、この人達によつて、今後の平鹿町の町政が行われようとしている。

総括責任者として、今、静かにこの選挙を振り返っていくつかの反省や、疑問を持つているがそのいくつかをあげてみる。

その一、候補者の政治に対する意見が、有権者に正しく伝えられてきたかどうかである。私の押した「堀田けんいつ」氏は、人の集まっている所では、或いは集まつていなくて、この町政に対する意見を、マイクを通してできる限り音つて来たのであつたが、これでも不充分であったと思う。

だから、今度は是非、全候補者が一堂に会しての「町政にのぞむ」と題する演説会を開くべきである。

その二、連呼の空しさである。車でたな前を言つて歩くのは言い換えると選挙民を馬鹿にしている事でない。私の方には車がこなかつた」と言う人は、選挙を何と心得ているものか、寒心に耐えないと。

またこれも選挙広報がなかつた事の反省になるのではないと思う。選挙広報は是非必要であろう。

その三、当たり前の事を当たり前と考へている人にはあつと驚く事であろうが、あのボスターは必要であろうか。「必要でない」と思う。

これとボスターなしの広報があれば、それで済むではないか。九十二個所にボスターを貼るとは全く馬鹿げている。

私が「堀田けんいつ」氏は、公務員の職を四年も残して、町の発展の為に立ち上がり、それを諒とした五百四十票を獲得したのである。

誠に選挙民の正しい目には頭が下がる思いがする。改めてお詫び申し述べたい。

さらに、この運動を中心とした部落の人達が、一致団結しボランティアとして活動して下さった事に心から敬意を表しておきたい。

部落がまとまるチャンスをつくった事も特筆すべきである。

「堀田けんいつ」氏の今後の活躍を期待して筆を擱く。

(総括責任者)

堀田町議は地元の積極的な町政への参加を促すため十月二十七日創作館にて三地区の自治会長ほか六名を招き当面の「地域づくり」をテーマに座談会をひいた。

堀田氏には近年における地域の実情や課題などを引き出し、彼自身の政治活動との接点を見出したいとしている。

以下話題を追つてみる

一、暮らしの道つくりについて

この件はすでにスタートしており町の計画も一応示されてしまっているが、明年度はじめの見直しに向けて町への要望はないものか。

これに対し下通りから「下はば墓地への道路整備」について、石成から「県道増田・平鹿線石成地内整備」について、下はばの自然を守る会(仮称)から「旧羽州街道の保存」について、上下通りから冬の歩道確保についてまた数年前三地区にかかる国道十三号線東側農道の整備計画が原案に至つた当時の事情なども話題にのぼつた。いずれ該当地区などで、今後検討すべき課題であろう。

二、保育事業が終止する石成児童館の今後の活用について。この件については町でも協議の場を設けるとしているが、小学校の週休一日制などから子供達の利用度も高まるだろうが老人の利用も考えたらどうかなど発言があった。

三、過疎対策について。これまで浅舞地区・吉田地区に町営住宅が建てられているが次は醍醐地区か。当地内に招致したいが水道の不備が問題である。また町へ頼るばかりでなく空家は積極的に貸家として活用し地域住人の増加を図るべきである。

四、上下水道設備の遅れをどう考えるか。当初計画は平成十七年だったが、前町長は移動町民室で二年ぐらいうまると言った。しかし今年三月の見直しでは平成十八年と示された。また施設の負担金にかかる宅地面積の算定に宅地の奥行は何メートルまでなのか、明示されなかつたし他町村との較差もあるようだ。

いずれにしても施工は早い方がいいのだが施工費の軽減や利用しやすい環境づくりが望まれる。

その他「賃貸計画」「災害対策」など諸々の課題があり有意義な二時間であった。

なお堀田氏は今後もメンバーを固定しないでこうした話し合いの場を持ちたいとしている。

わが平鹿町の第十一回町議選は終わった。

同志堀田賢逸氏は多くのご支持を得て当選を果たした。

投票日の翌日私は少し落胆した氣分で選挙中に配達された某社のPR誌をめくついた。と、「そこまでいやがられるとは」の活字が眼に飛びこんできた。その清水氏(作風)の一文のタイトルは選挙中のある出来事と重なり想いを新たにしたのである。

それはA氏が舌をもつて堀田氏と私を説教し、その結果は自分が多くの人々から「いやがられる」羽目になつたことである。

そして更に「そこまで」と思える事態もあり、それは嘆苦以外のものでもなかつた。

ところで茨城県岩間町には「懲罰祭」なる奇習があり、A氏はそれを真似ようとしたのだろうか。

しかし堀田陣営では、いささかも動せず町民の良識を信じようとな戦を誓い合つた。

橋口収氏(前公取委員長)はその著書「懲罰と寡黙」の中で寡黙を選んだ人の人生は稠密豊饒にして後年の人間活動の源泉になるだろう」と述べている。それにもしても正当な判断を示してくれた選挙民には心から厚くお礼を申し上げる次第である。

また地元の皆さんのが始一貫、碌身の協力にも深謝しておきたい。

選挙も終わつたいまA氏はどう思つてゐるだろうか。私達にもいろいろ想いはあるものの構いを転じて福と成せるよう精進あるのみと考へていらっしゃるようだ。

(選対委員長)

選挙 感

伊藤富一郎

平鹿町の気球

野球小僧

野球小僧は町職会
一誠実実行!充物で
平鹿町へ虹をよぶ
我等が希望の北の星
僕のよくなね君のよら
おおマイボイ
朝らかな朝らかな
野球小僧



醍醐地区の町職員六人は、全員新人です。ついでには「西湖会」を結成しました。これを目的に「醍醐政の発展に寄与する」ことを目的に「醍醐会」を結成しました。発足は十月十八日。

会長 森田貞一
副会長 堀田賢逸
会員 齋藤純司
小林昭一
齊藤喜代美
佐藤誠洋
の各氏です。